

日 時 : 2016年6月22日(木) 14:00 ~ 17:00
場 所 : 塗料報知新聞社 会議室
出席者 : 議長: 木下 真生 (ランズバーグ・インダストリー(株))
分科会長: 窪井 要 ((有)久保井塗装)
副分科会長: 内山貴織 (東和酵素(株))、高橋大 (株三王)
幹 事 : 平野克己 (日本塗装機械工業会)
石井信行 (株大塚刷毛製造)
稲田建 (株花菱塗装技研工業)
相談役 : 福田良介 (日本パウダーコーティング協同組合)
アドバイザー: 田村吉宣 (株アースクリーンテクノ)、
片山真司(J & Sエンジニアリング(株))
坂井秀也 (坂井技術士事務所)
奴間伸茂 (塗料塗装技術研究所)
ゲ ス ト : 小澤洋一 (横浜化成) 渡辺勇太 (城南コーテック)
塩森 篤博 (株岡久) 高橋善之 (大塚刷毛製造(株))
須田威志 (株豊田自動織機) 望月徳三 (東京ガスケミカル(株))
吉野和彦 (株明治機械製作所) 松原出 (株大気社)
小林利紀 (日本シー・ビー・ケミカル(株))
白石公郎 (株サトー) 小泉雄一 (株小泉塗装工業所)
高畑和幸 ((有)シーティータカハタ) 石井真里奈 (東京都環境局)
荻原義久 (埼玉県大気環境課) 北九州市環境局 (内藤英夫)
村松久仁則 鈴木恭子 ((有)かこうや)
古野伸夫 (株ファインクレイ) 村田晋 (株村田塗料店)
事 務 局: 有馬弘純、藤井謙二郎 (塗料報知新聞社)

28名 敬称略

①分科会長挨拶

ただいま第1回 IPCO 総会が無事終わりました。我々の力でどれだけのできるかということはありませんが、他会より柔軟な分やれることが沢山あると思います。

②初参加者挨拶

横浜化成(株) 代表取締役社長 小澤洋一氏
埼玉県大気環境課 荻原義久氏
株ファインクレイ 代表取締役 古野伸夫氏
(有)かこうや 代表取締役 鈴木恭子氏

③セミナーについて

・日本海セミナー(岡久 塩森)

日程が確定した。9/30 工業関係セミナー(定員 180 名)、10/1 自補修(岡久 2 階会議室 午前/午後に分ける)。

一昨年、本セミナーは成功裡におわり次回開催を期待されているが主催の問題は解決されていない。この問題を解決したうえで開催すること。

・北海道セミナー(三王 高橋)

昨年に続き 8/31 にパウダー協北海道支部主催で工業塗装技術セミナーを開催。

IPCO からは窪井氏、片山氏、サトー 白石氏は PD 協枠で講演。デモなどは来年度以降に検討する。

・九州セミナー(花菱 稲田)

今回の九州セミナーは北九州市と連携し、エコテクノと併催できないか、検討中。IPCO は講師派遣を予定。以下北九州市の取組について内藤氏より説明。

- ・内藤英夫氏(北九州市)：大気汚染対策に関して、2014 年から本格的に PM2.5 対策で上海・天津・武漢・唐山・邯鄲の中国諸都市および日本の自治体と協力し、環境省や外郭団体から支援をいただき訪日研修や専門家派遣を行っている。2016 年は、さらにこれまでの協力関係を発展させる予定。今回、上海市から VOC 防止対策の共同調査で、揮発性有機化合物の汚染防止対策や排出削減技術に関する交流の要望がでているので、IPCO の皆様にご協力いただきたい。特に造船所の鋼材の前処理など大型鋼材部材の塗装についてのニーズが高い。

⇒稲田氏を中心にニーズとシーズを掘り下げはつきりさせていくのが良い。

・その他セミナー

沖縄(東和酵素 内山)

沖縄の販売店 日垂商事より溶剤・粉体・安全をテーマにセミナーを開催したい意向あり。11 月頃を予定。場所 宜野湾か中城。

関西工業塗装協同組合(CEMA 平野)

青年部会が発足して、ぜひ勉強会をしたいとの要望あり。セミナー形式か他形式か、どうかたちで対応するか、問題提起。

④環境技術分科会：炭酸ハイブリッド他 経過報告(片山 眞司氏)

マイクロバブルで VOC を処理するもので、ただいま実験中。RTO(回転型の焼却脱臭装置)の十分の一で済む。選択肢を広げることが一つの狙い。

歩留りアップ塗装機の構想 塗着効率の差が顕著に出た。8 月に詳細を分析調査予定。12 月中旬にボディ塗装テスト。

⑤安全技術分科会：リスクアセスメントについて 経過報告 田村 氏

健康リスクアセスメントのみ先行して作成されており、火災リスクアセスメントを IPCO で取り組んでもらいたいとのこと。みずほ総研のリスクアセスメントとガイドブックはすでにあるが難解。

久保井塗装を例にとり、火災リスクアセスメントは行っている。この結果、自分・作業員・会社を守るリスクアセスメントマインドを作らなければならないと思う。

⑥環境技術分科会：サトー 白石公郎 氏

4月よりの経過報告。

5月に特許出願、6月にもものづくり補助金採択。今後は、8月仮稼働、9月に本格活動。

電着塗装ではハンガーの処理数が目安。最終目標としては1300から2000本。

形式的な改善装置としないため、システムに付随する会社内の変革も必要。

生産性を上げるのか能力を上げるのかが問題。また、安全性の向上にも付与するのでは。

⑦環境技術分科会：豊田自動織機 須田威志氏

品質、環境、安全に関し引き続き改善策を模索している。

⑧環境技術分科会プレゼン：ファインクレイ 古野伸夫氏

分級ポンプ弁財天

本製品は塗装排水を分離分別する装置であり、特徴としては、気化物質を水域外に廃棄すること。

リン酸亜鉛の皮膜剤使用時にガスを取る。適切に反応処理したガスは抜けるようにする。

塗装ブースでの排水処理での脱気プロセスは、①（曝気ではない）脱気 ②貯水槽、中計槽での沈降スラッジの掻き出し ③塗膜として利用＝排出

まだ製品として実績はないが、EK フィルター不要ということもあり、普及に取り組んでいきたいと思う。

⑨その他：東京都 石井真里奈氏

環境局 VOC 対策セミナー「知って始める工場内 VOC 対策セミナー」

平成 28 年 7 月 21 日（木） 13：30～16：30 都民ホールで開催。

10年ぶりに改訂された VOC 対策ガイド（工場内編）について、ドライクリーニング分野を例にとり、改訂の概要を紹介。あわせて工場内塗装分野で、工程や設備の改善により VOC 排出量を削減するコツを、現場の実態も踏まえて紹介する。

⑩連絡事項

次回開催は 8 月 24 日（水） 13：00 より 塗料報知新聞社会議室にて。

以 上